

応神地区 地震・津波避難支援マップ説明書

平成 24 年 4 月 25 日

このマップは、近い将来に発生が予想されている東海・東南海・南海地震における迅速で安全な避難行動を支援するため、2012年3月現在の基本情報（避難先、避難ルート、主な地点の標高）と付加情報（危険箇所など）を、応神コミュニティー協議会、徳島大学環境防災研究センター、および徳島市が協力してまとめたものです。

各家庭、各町内会で避難場所や避難経路を決めているかと思いますが、災害の程度によってはそれらが使えない場合が発生します。このマップを使って複数の避難方向と避難場所、経路上の危険箇所を確認して下さい。例えば夜間に災害が発生すると避難が難しくなる可能性もありますので、一度避難場所まで歩いて経路と場所の状況を確認することをお勧めします。

今回作成したマップは、現状における避難先・避難経路をまとめたもので、巨大地震・津波に対して十分対応できない可能性があります。従って“このマップが完成して終わり”ではなく、今後、具体的な災害想定のもとで避難訓練を繰り返し行って『自分たちにできること（自助、共助）』を考えつつ、行政と協同して、より安全な避難場所や避難経路の整備等を進めることになると思います。つまり“このマップから応神地区の地震・津波防災が始まる”ということになります。

このマップを常日頃からご覧頂き、「こんなときどうすれば良いだろう？」と『いろいろ考えておくこと』や『確かめておくこと』が、いざという時の落ち着いた避難行動に繋がると考えます。

〔マップに掲載している情報について〕

- (1) **地盤標高**を地図上に記しています。国土地理院基盤地図情報から入手したのですが、誤差は最大で数十センチあるようです。詳しくは国土地理院のホームページをご覧ください。
- (2) **指定避難場所・津波避難ビル**は徳島市が指定しているもので、指定避難場所は津波による浸水の恐れのない建物・場所と考えられている主に公共施設です。津波避難ビルは津波による浸水が想定されている地域内における津波から緊急的・一時的に避難するための施設で多くは民間施設です。これらの場所・ビルも地震、液状化、火災等によって使用できなくなる可能性があります。
- (3) **緊急避難場所**は地域（応神コミュニティー協議会や各町内会）で独自に協力をとりつけた建物や広場、使えそうな公共的空間で、地盤が周囲より高い場所です。ただし津波に対して高さが必ずしも十分でない場所や、水辺に近く状況によっては危険となりうる場所、大人数の避難には適さない場所、夜間の使用が難しい場所などがありますので、平時に確認しておく必要があります。そして指定避難場所などへ移動する余裕がないようなときの緊急的・一時的避難場所として考えることが重要です。これらの場所も地震、液状化、火災等のために使用できなくなる可能性があります。

- (4) 避難経路は移動が容易だと考えられる主要道路を太く、それ以外を細く示しています。矢印は避難方向です。各町内会で2つ以上の避難先が確保されるように示しています。
- (5) 地震は建物倒壊や火災を引き起こす可能性があります。そのため危険箇所として可燃物取扱所、鉄塔・高圧電線を示しています。避難経路上の危険箇所を確認して下さい。
- (6) 河川（特に今切川）から津波の侵入が予想されますので、吉野川（堤防）と今切川（河口堰、堤防、樋門）、津波の高さに関する情報を示しました。2012年3月に政府から公表された徳島市における津波高は6.7mです。
- (7) 樋門を示しています。樋門は津波の侵入口になる可能性があります。大津波が予想される場合、操作員の安全を考慮して閉鎖しないことがあります。
- (8) 安政南海地震（1854年）の記録を應神郷土史から抜粋しました。応神西部で地割れ・亀裂が多かった理由としては旧河道の存在が考えられます。
- (9) 避難には予想以上に時間がかかります。平時における成人の歩行速度は毎秒1m程度ですが、地震による家屋倒壊・道路閉塞や、要援護者（けが人、病人、幼児）の救助を考慮すると、その半分（毎秒50cm）程度になるようです。平時に予定避難場所までの距離・時間を確認して、迅速な避難を心がけて下さい。